群馬創生 Vol.1

郷土愛×糸井商事

地域と企業 ともに発展

総合リサイクル業の糸井商事（高崎市上大類町、糸井文之社長）は1946年の創業以来、地域の発展に伴って成長を遂げてきた。「地域の活性化と企業の繁栄はともにある」と語る糸井社長は本業のほか、野球の独立リーグ、群馬ダイヤモンドペガサスやeスポーツ施設の運営などを通して地域振興に力を入れている。少子高齢化や人口減少、東京圏への一極集中などを背景に地方の衰退が進む中、「郷土愛」に満ちた糸井社長と、地方企業の取材を長年続けて地方創生に詳しいフリーキャスターの伊藤聡子さんが「群馬創生」をテーマにシリーズで語り合う。

いとう・さとこ　フリーキャスター、事業創造大学院大学客員教授。1967年、新潟県糸魚川市生まれ。東京女子大卒。大学在学中にキャスターデビュー。事業創造大学院大学でMBA（経営学修士）取得。現在はコメンテーターとして「ひるおび」（TBSテレビ）などに出演。国の各種委員会委員を務めるほか、地方創生などをテーマに幅広く活躍する。

いとい・たけゆき　糸井商事社長、糸井ホールディングス（HD）社長。1954年、高崎市生まれ。高崎高一慶応大卒。大学卒業後、製鋼会社勤務を経て79年に糸井商事入社、99年に社長就任。2017年、糸井HD設立。野球の独立リーグ、群馬ダイヤモンドペガサスの球団会長を務める。NPO法人群馬外国人支援センター理事長、群馬eスポーツ社長。

30年前に出会い 長年の思い実現

糸井　本題に入る前に、伊藤さんと対談することになったきっかけを話させてください。

伊藤さんは覚えていないかもしれませんが、実は30年ほど前に一度会っているのです。1994年ごろ、仕事でヨーロッパに行った際、フランスから成田空港行きの帰国便で一緒になったのです。伊藤さんはビジネスクラスの一番前の通路側の席に座っていたでしょう。窓側の席にいたのが私でした。

伊藤　え～、そうでしたか。確かに少しお話をした記憶があります。

糸井　搭乗してすぐにお酒を飲んで寝てしまったのですが、成田空港に到着する前の2時間ほどお話をしたのです。その時に「スーパーモーニング（テレビ朝日）の仕事でヨーロッパに1週間くらい取材に行っていた」というようなお話をしてくれて、すごく印象に残っています。

その後はテレビ画面越しで活躍を目にしてきて、「あの時もっと早く起きていろんな話をしておけばよかった」と心残りがあったのです。いつかそんな機会があればと思い続けていたところ、今回の対談企画が持ち上がり、長年の思いがようやく実現できたのです。

伊藤　お話を聞いていて思い出してきました。パリからの帰りの便ですよね。あの時は帯の番組を任されたばかりで、すごい重圧を感じながら緊張の連続だったのですが、最後に糸井さんの優しいお人柄に触れて、ほっとした楽しい時間を過ごすことができました。今でも覚えていてくれたことに感激です。このような機会をつくっていただき本当にうれしいです。

糸井　思い出話で盛り上がったところで、改めて自己紹介をさせていただきます。高崎市の生まれで、高崎高から慶応大に進みました。本業の糸井商事は建設現場や事業所、家庭から出るスクラップや不用品を回収するリサイクル事業を軸に、鉄筋・鉄骨工事や解体工事、建設現場に必要な鋼材の販売などを手掛けています。

戦時中に、軍需産業の理研コンツェルンで働いていた父が鉄スクラップを中心に製鋼原料を扱う事業を家業としました。私は大学卒業後に新日鉄（現日本製鉄）のグループ企業である合同製鉄に2年間勤めて地元に戻り、99年に父の跡を継いで社長に就きました。

本業の傍ら、地域活性化に貢献しようと、群馬ダイヤモンドペガサスやeスポーツ施設「GUNMA eSPORTS」の運営などもしています。

伊藤　新潟県糸魚川市出身で、大学在学中にキャスターとしてキャリアをスタートしました。情報番組や報道番組を中心に情報を発信する役割を担う中で、30代前半の時に一度立ち止まって知識を蓄えたいと考え、34歳でアメリカに留学しました。留学先ではさまざまな国、バックボーンを持つ人々と触れ合い、価値観の違いや世界の広さを改めて感じました。

帰国後は世界の途上国で国際協力の現場を取材しました。途上国の現状を目にする中で、「援助は必要だけれど、それだけでは本当の助けにならないのではないか。将来的に自立をしていくためにはビジネスの力が不可欠だ」と考えるようになりました。経済や経営の知識を学ぶため、新潟市の事業創造大学院大学に入学し、MBA（経営学修士）を取得。現在は情報番組のコメンテーターや国の委員会などの仕事と並行して、全国の地方企業の取材も続け、それぞれの地域が個性豊かに輝く日本になることを夢に活動しています。

糸井　私のルーツの半分も新潟なのです。母方の祖父が長岡出身で、長岡工専（現在の新潟大工学部）の先生をしていました。高崎にあった軍需産業の理研グループの工場長として赴任したことがきっかけで、群馬に居を構えることになりました。新潟には多くの親戚がいて、今でも深いつながりがあります。

伊藤　そうでしたか。本当にご縁がありますね。両親がかつて新潟市内に住んでいて、帰省の際は関越道を使って群馬にも頻繁に立ち寄っていました。

群馬は自然豊かで、温泉にも恵まれ、本当に素晴らしい場所が多いですよね。4人の総理大臣を輩出し、起業家の方も多い印象です。大志を抱いた方たちが多くいる土地柄なのでしょうね。

地元ファンが見守る中、2度目の日本一に輝いた群馬ダイヤモンドペガサス。野球を通じて、地域活性化に貢献している＝2018年、前橋市民球場

代々暮らした地に 子孫も住み続けて

伊藤　糸井社長は地域活性化に力を注ぎ、熱い郷土愛をお持ちですね。その源は。

糸井　利己的な思いですが、「先祖が生活してきた群馬の地に子孫もずっと住んでほしい」という願いが根底にあります。

私の一族は高崎市吉井町の出で、300年近く続く農家の家系です。先祖の墓も吉井にあり、代々守ってきたのですが、私がこの世を去った時に、「盆にも彼岸にも、孫やその子どもが墓参りに来てくれない」「一族みんな東京に行ってしまった」というのでは、とても寂しい。

「ずっと群馬に残ってほしい」と遺言を残すのは簡単ですが、廃屋や空き店舗ばかりで街が廃れてしまったら、かなわない願いです。だからこそ、地域がいつまでも元気であれば、子どもや孫が幸せに暮らしていけるだろうと。こういった思いが原動力です。

本業で考えても、人がいなくなり、元気がなくなってしまった街では商売が成り立たない。古い建物を解体し、新しい建物のために鋼材を卸す。工場で不要になる有価物や廃棄物を引き取る。地域が活性化し、循環してようやく仕事が成り立つのです。まさに「地域の発展と商売の繁盛は切り離せない」ということです。

伊藤　糸井商事は一般家庭から持ち込まれたペットボトルや段ボールなどの再資源ごみを回収するリサイクル事業「エコスル」を展開していますね。種類ごとにポイントを定めて、1ポイント＝1円分でクオカードに交換するという仕組みです。生活者からすると非常にありがたい事業ですが、企業として利益を出すのは難しいところもあるのではないでしょうか。

糸井　生きる中での指針があります。それが「動機善なりや、私心なかりしか」という考え方です。これは、京セラ創業者の稲盛和夫さんの教えで、「物事を始める時の動機は自分の利益や都合、体裁などではなく、自他ともに受け入れられるものでなければならない。自己中心的な発想で物事を進めていないかを点検しなければならない」といった意味です。

これが仕事にも生かされています。目先の利益だけを求めるのではなく、自分の仕事が巡り巡って、子どもや孫の代に返ってくれば良いと考えています。エコスルも、そういった思いで始めた事業です。

伊藤　途上国の自立にはビジネスの力が大切だと述べましたが、国内の東京圏と地方でも共通すると考えています。地方を活性化するためには、「国がもっとお金をくれなければ」という声もありますが、本当に大切なのは地方を支える企業の存在です。

「地域の発展とビジネスの成長は一心同体」と言うのは簡単ですが、実践するのは非常に難しい。だからこそ、しっかりとしたマインドを持って事業に取り組んでいる糸井社長はとても素晴らしいと思います。

糸井　地域で商売をするためには何よりも地域からの信頼が重要だと考えています。信頼とは、経営者の在り方です。「その時代、その地域で、あなたが必要だ」と人々に思ってもらえなければ、信頼されているとは言えません。商売が信頼の上に成り立てば、その会社は傾かないというのが私の考えです。

伊藤　素晴らしい考えだと思います。全国を取材する中で、長く続く老舗企業に共通していることは、地域に信頼されているということでした。老舗企業の経営者もそういったマインドを持った方が多い。創業76年という歴史も、糸井社長が築いてきた信頼の証しなのですね。

糸井商事が運営するエコスル。家庭の再資源ごみを持ち込むことでポイントと交換できる＝高崎市問屋町

女性輝ける環境は 経営者の力が必要

伊藤　地域活性化には人材の確保も大切になってきます。しかし、地方を見てみると、東京圏への人口流出は依然として多いのが現状です。特に若い女性の転出が多い。これは総務省の人口移動報告でも顕著です。

ではなぜ、若い女性が地方を選ばないのでしょうか。それは、女性が輝ける職場や環境が整っていないからです。私自身、新潟から東京に出た身。なぜ地元を離れたかというと、「ここにいたら、自分の人生は開けない」と正直思ってしまったのです。地方には「女性はこうあるべきだ」という考えが東京より強く残っているのも要因の一つでしょう。女性の働き方は日本全体で考えていかなければならない問題です。

それでは女性が輝ける職場とは、どういったものでしょうか。まずは、長時間労働を前提とした働き方を改革し、さまざまな状況を抱える人が諦めずに働ける環境が必要です。また、仕事を通じて地域・社会に貢献しているという自負や誇りを実感できることは働く際の大きなモチベーションにつながります。家庭や子どもを持っても、一個人の女性として生き生きと輝ける環境をつくること。そのためには、地域の将来を考える経営者の力が欠かせないのです。

地方に住んで働く コロナで意識変化

伊藤　新型コロナウイルスの流行は、企業や働き手の意識を変化させる契機になりました。これまでは、地方に住み続けたいと思っても希望する職種が少ないため東京圏へ転出していったのですが、テレワークが普及したことで、地方に住んで働くということが実現できるようになってきました。

内閣府の「地方創生テレワークアワード」の審査員を務めたのですが、都内にあるIT企業の方が「サテライトオフィスを設けて地方で働ける環境がなければ、働き手が集まらなくなっている」と話していたのが印象的でした。若い人たちの価値観が大きく変化しているのです。こういった状況は、長年にわたって人材不足に悩まされてきた地方にとってはチャンスと言えるのではないでしょうか。

糸井　コロナで社会構造が大きく変化した中で、人々の価値観も変わってきていることは強く実感しています。

伊藤　佐賀県の嬉野温泉のある旅館では、コロナの影響で客が減少したことを逆手に取り、旅館の半分をサテライトオフィスとして貸し出しました。その結果、都内のIT企業4社がすぐに利用するようになったのです。新たな人材の流入は、さまざまな化学反応を引き起こします。嬉野温泉ではIT企業の社員と地元のお茶農家や企業がタッグを組み、お茶の販売や製造にDX（デジタルトランスフォーメーション）を取り入れたアイデアを共有するなど、新たな展開が広がっています。

群馬は東京から新幹線で約1時間と絶好の立地にあります。豊富な自然があり、高崎や前橋には、にぎやかな街もある。程よく都会と田舎が融合した「トカイナカ」で、移住を考えている人にとっては選択しやすい素地があると思います。

その上で、温泉やおいしい食べ物、自然など魅力ある資源をどのようにアピールしていくかがポイントです。近年は「健康」や「食」、「家族との時間」などがキーワードになっているので、そういったニーズに応えられる環境整備に力点を置いて知恵を絞ることが必要になっていきます。

糸井　いかに人を呼び込むかというお話がありましたが、私が取り組んでいるeスポーツ推進の狙いも同じです。昨年11月にGメッセ群馬で開かれた全国規模の大会「Red Bull 5G」（レッドブル・ジャパン主催）でトップスポンサーを務めました。群馬をeスポーツの聖地にすることで、国籍を問わず、さまざまな人々が往来する地域をつくり上げたいというのが狙いです。

糸井HDがトップスポンサーを務めたeスポーツ大会「Red Bull 5G」の決勝大会。交流人口増加に向け、"聖地"を目指す＝2021年、高崎・Gメッセ群馬

地域への熱い思い 競争を生き抜く鍵

伊藤　地域の魅力発信のためには、民間や行政といった垣根を越えた連携も欠かせません。

例えば、長野県伊那市では伊那中央病院と寒天食品を製造する伊那食品工業、3Dプリンター技術を持った「スワニー」という会社が連携し、医師の手術練習用の臓器モデルを開発しました。臓器モデルは練習用として医療現場では欠かせない物ですが、価格が高く負担になっているのです。

伊那市の取り組みでは、3Dプリンターを活用して寒天で臓器モデルを作り出し、実際に病院の医師がメスを入れて本物の質感に近づけるといった作業を繰り返して実用化できる物を作り上げました。従来の10分の1程度の価格に抑えられ、注目を集めています。

地域にある素晴らしい技術が連携することで、課題を解決し、世界の市場をも狙えるという良い例です。

糸井　人口減少や労働力不足は全国共通の問題です。人材の奪い合いで、まさに地域間競争の時代となってきました。生き抜くために重要なファクターは、地域を思う人の「度数・深さ×倍数」だと考えています。「地域をどうにかしたい」という熱い思いを持った人の輪をどれだけ広げられるかが、地域間競争の雌雄を決すると思います。

それは、出身者だけでなくてもいいのです。野球のダイヤモンドペガサスは今年で15周年を迎えました。素晴らしい選手や監督、コーチに恵まれ、リーグ優勝5回、日本一を2度経験することもできました。これまでに、県外出身の選手が230人以上在籍しましたが、引退後に3分の1近くが群馬で仕事をして生活しています。縁のなかった若者たちが第二の故郷として根を下ろし、少年野球の監督をしている人もいます。

高崎経済大生を対象とした無利子の奨学金を設けているのも同様です。県内の企業に就職すれば、半額免除とし、将来を支える人材として一人でも多く群馬に残ってもらいたいのです。

郷土を思う人々の気持ちの結束が地域活性化の源だと考えます。取り組んでいる活動の成果は、生きているうちに見ることはできないかもしれません。それでもいいのです。落とした小石が確かな物であれば、その波紋は必ず対岸にたどり着くと信じています。だからこそ「一緒に地元を盛り上げないか」と周りの仲間に呼びかけ続けているのです。私の足跡や後ろ姿を見て、一人でも多くの人が共感し、行動してくれることを信じて、これからも思いを紡ぎ続けていきます。

2回目は8月下旬に掲載予定です

Shape a circulating society
～循環する社会をカタチに～
糸井商事株式会社
本社住所　〒370-0031　高崎市上大類町399　TEL　027-352-6335

糸井商事の4つの事業

原料事業　工事事業　鋼材事業　資源循環事業

群馬をもっと元気に
糸井ホールディングス株式会社
GUNMA DIAMOND PEGASUS BASEBALL CLUB
GUNMA eSPORTS